

令和3年5月25日

日立理科クラブ通信



No. 154

日立理科クラブ

理数アカデミー 合同入校式

5月23日(日)、理数アカデミーの13回目の合同入校式が、教育プラザで行われました。

受講者数は、	理科クラス(小6…21名、中1…14名、中2…11名)	計46名
	算数・数学クラス(小6…15名、中1…16名、中2…10名)	計41名
	自由研究コース(小6…3名、中1…6名、中2…6名、中3…3名)	計18名

東大「ジュニアドクター育成塾」枠の受講生は、東京・大阪・兵庫・長野など、20人を超える希望者数で、6月20日の「選抜」後に科目が決定します。東京・栃木・千葉からの受講生は、昨年からの継続で参加しています。今回、門戸が全国区になったのは、コロナ禍の中、日立会場での活動に、リモートで参加できる受講生を募集したからです。そのため、全国の科学に興味・関心の高い受講生からの応募が増えました。今年度は、リモート参加の受講生を含め新しい試みが実践される、今までにない理数アカデミーの活動が展開されるのではと期待しています。

来賓の折笠教育長や主催者の瀧澤代表から、理数アカデミーでの活動の意義、学びの重要性などについての強いメッセージが受講生に伝えられ、これからの社会の中で立ち向かうべき多くの課題に、協働的な学びを通して新しい考えを創造し、未来を切り開いてほしいという願いが込められていました。

受講生を代表して榎本慧君(日立一高付属中2年)から、「私は科学が好きです。私は、科学者になって世界に多く残っている不思議を解き明かしたいと思っています。例えば、この世界は何でできているのか?や、宇宙の多くを占めている物質の正体は一体何か?という謎に迫りたいのです。そのためには、科学や数学の知識が必要です。20世紀を代表する偉大な科学者の一人に、アルベルト・アインシュタインが挙げられます。彼が残した言葉の中に、何かを学ぶためには、自分で体験する以上に良い方法はない。ただ公式や理論を覚えるよりも自分の目で見たり手で触れたりの方が学びに適しているという考え方です。理数アカデミーは、実験しながら、科学や数学を学ぶことができる最高の学びの場です。そんな最良の場所で、僕は無線に関する研究をしたいと思います。情報通信技術に興味があったのでこのテーマにしました。貴重なこの機会を、余すことなく、充実した研究にしたいと思います。」と、自分の抱負や心構えを述べていました。

入校式の後、「仲間の発言をどう活かすか」という演題で、国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官白水(しろすい)先生の講話がありました。理数アカデミーでの学びの根幹を受講生に分かり易く話していました。

火曜日+水曜日=金曜日 の時

木曜日+月曜日= ?

という計算など、経験則や自分の固定概念だけでなく、人のアイデアを借りて問題を解決していくことの大切さを訴え、「人はどうやって問題を解くのか?」という最初の問に、「学ぶとは、人とかがわり合いながら賢さを育て続けること」と、演題に結び付ける結論を導いていました。

令和3年、理数アカデミーの1年間の活動がスタートします。

がんばれ!!未来の小さな科学者たち!!



理科クラス



算数・数学クラス



自由研究コース